

医療の現場から ～治療トピックス～

単顆人工膝関節置換術をご存知ですか？

整形外科医長 **大西 勉**



変形性膝関節症や大腿骨顆部の骨壊死のような疾患に対して人工膝関節置換術という治療法が選択されることがあるのは周知のことと思います。しかし人工膝関節置換術には人工膝関節全置換術（TKA）と単顆人工膝関節置換術（UKA）があるのを御存知でしょうか？

人工膝関節全置換術は一般的に施行されている人工膝関節置換術のことですが、単顆人工膝関節置換術というのはあまりなじみのない治療法だと思います。

膝関節には内側、外側、膝蓋骨との間と3つの関節があります。人工膝関節全置換術はこの3つ全ての関節を人工関節に置換（膝蓋骨表面は置換しない場合もあります）する方法です。それに対して単顆人工膝関節置換術はそのうち内側（もしくは外側）の一カ所のみに変化がある場合にその部分のみを人工関節に置換する方法です。

手術は片側しか操作しない為、侵襲は少なく出血も少量です。リハビリテーションも侵襲が少ないため人工膝関節全置換術に比較して早く目標達成ができることも利点と言えます。

このような利点のある単顆人工膝関節置換術ですがその適応は限られています。まず病変が内側（もしくは外側）の一カ所のみに変化があること、靭帯に損傷がないこと、変形が少ないこと、などの条件に当てはまる場合のみ適応となります。

したがって術前の検査と手術中の所見が非常に大切です。単顆人工膝関節置換術を施行する予定であっても手術中に前述の条件が満たされなくなれば人工膝関節全置換術に変更しなければなりません。特に高齢者の場合検査所見ではっきりしなかった病変が手術中に見付き変更を余儀なくされることもあります。

当院では単顆人工膝関節置換術の適応になりそうな症例には術前にMRIを撮影し、靭帯や半月板などの異常の有無、病変の範囲、他の病変の有無などを確認した上で手術をお勧めしています。また前述のように手術中に病変が見つかり人工膝関節全置換術に変更になる場合もありますので、この手術を施行する際には単顆人工膝関節置換術の手術と人工膝関節全置換術の手術の両方を準備したうえで手術を施行しています。この手術を希望される方は主治医にご相談下さい。

